

**去年は渇水・豪雨も収量・品質向上！（地域間差有）  
基本技術の確実な実施でさらなる収量・品質向上を！！**

## 1 令和8年産大豆「高品質・多収栽培」のポイント

- ・ 作付ほ場の団地化（周囲水遮断）
- ・ 排水対策の徹底（周囲明きよ、弾丸暗きよの施工）
- ・ 碎土率（直径2cm以下の土塊割合）70%以上の丁寧な耕うん作業
- ・ 種子消毒、播種後除草剤散布の徹底
- ・ 中耕・培土の2回実施
- ・ 干ばつ時のかん水対策の実施
- ・ 開花期以降の基幹防除、子実害虫防除の徹底
- ・ 適期収穫の実施

目標収量  
220kg/10a  
目標品質  
2等級以上30%

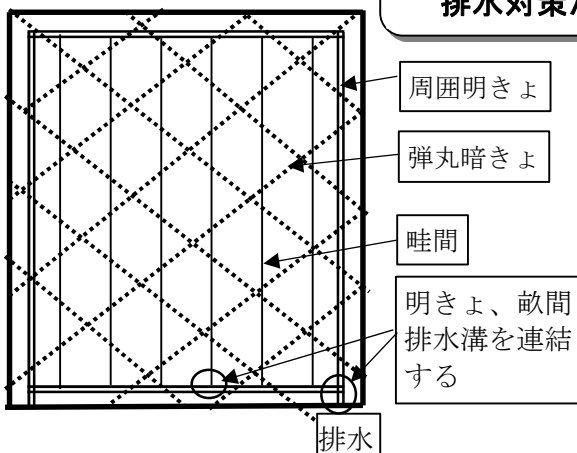
【参考】村上地域における大豆の検査状況

(JA 検査結果 2月末現在より)

年度・品種名	検査数量 (個/30kg)	等級比率 (%)					
		1等	2等	3等	合格	規格外	
R7	エンレイ	1,364	—	—	90.9	5.9	3.2
	里のほほえみ	3,646	10.4	47.6	4.7	30.7	6.6
	合計	5,010	7.6	34.6	28.2	24.0	5.6
R6 (全品種)	4,589	—	4.1	33.3	57.5	5.2	
R5 (全品種)	7,060	0.2	—	21.2	77.0	1.6	

## 2 排水対策の徹底

排水対策のイメージ



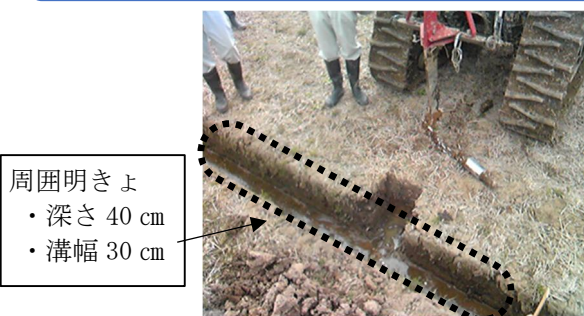
○排水対策の徹底が、多収穫に直結します！

○降雨後の表面停滞水を1日以内に排水出来ていないところは排水対策が不足しています！

### 排水のポイント

- ① ほ場周囲に明きよを掘り、排水口に確実につなげる(溝幅 20~30cm、深さ 30~40cm)。
- ② 弾丸暗きよは深さ 30~45cm、間隔は透水性の悪いほ場では2~3mおきに施工し、透水性の良いほ場では間隔を広げる。
- ③ 畝立て同時播種を導入する。

### 周囲明きよ及び弾丸暗きよの施工例



### 排水の悪い事例



×排水口に連結されていない  
×排水口の位置が高い

### 3 施肥

- (1) 大豆は多量の窒素を必要とするため、根粒からの窒素供給が重要です。根粒菌は酸性を嫌うので、ほ場に応じた酸度矯正を行いましょ。
- (2) 基肥成分量は、10a 当たり窒素 1.5～2.5 kg、リン酸 6～8 kg、カリ 6～8 kgを目安に施用しましょ。
- (3) 収量水準が低いほ場や、排水不良で初期生育不良となり収量・品質低下が予想されるほ場では、追肥分の緩効性窒素が配合された肥料を活用し、収量・品質向上を目指しましょ。

	資材名	施用量 (kg/10a)	成分率(%) N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O アルカリ分(CaO)	成分量(kg/10a)			
				N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	アルカリ分
酸度矯正 土壌改良	粒状苦土炭カル(M-10)	130	アルカリ 55	—	—	—	71.5
	ケイカル(粒状)	160	アルカリ 45	—	—	—	72.0
基肥	ニュー大豆 800	20	8-30-20	1.6	6.0	4.0	—
	有機入り大豆配合 2号	20	8-12-14	1.6	2.4	2.8	—
緩効性 窒素入り	ワンタッチ大豆	40	19-15-16	7.6 (緩効N 6.0)	6.0	6.4	—

### 4 耕うん

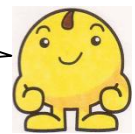
- (1) 排水対策を早め実施し、ほ場をよく乾かしましょ。
- (2) 排水不良、重粘土質ほ場は、できる限りほ場が乾いた条件の良い日に耕うんを行いましょ。
- (3) 耕うん・砕土・整地の作業は、連続作業で行う(耕うん後に雨が降るとほ場が乾きにくくなります)。
- (4) 作業は速度を落とし、耕うんピッチを小さくして作業しましょ(1回の耕うんで細かくすると効果的です)。



### 5 種子消毒・播種

- (1) 種子消毒により、ネキリムシ類、タネバエ、苗立枯病、紫斑病などを適切に防除しましょ。

- ・農薬は、農薬使用者が責任を持って使用しましょ。
- ・農薬を使用する際は最新の登録状況を良く確認し使用しましょ。



- (2) 「里のほほえみ」は、種子が大きいので大粒用の播種目皿等を使用しましょ。
- (3) 表層の砕土が荒く、播種後に晴天が続くと予想される場合は、播種深をやや深めにしてください。

#### 播種時期と播種密度の目安

播種時期	5月末～6月10日	6月11～20日
エンレイ	9～10粒/㎡	13～18粒/㎡
里のほほえみ	9～18粒/㎡ (6月1日からは種)	

### 6 雑草対策

- (1) 耕起前の雑草が多いと、出芽・苗立ちの低下を招くことがあります。あらかじめ枯殺しておきましょ。
- (2) 耕起前に茎葉処理剤を散布するときは、周辺の水稲に飛散しないよう注意しましょ。
- (3) 播種後の除草剤は効果を安定させるため、は種直後、土壌が乾燥する前に散布しましょ。
- (4) 前年、難防除雑草の帰化アサガオ類が発生したほ場は、ブロックローテーションによるほ場変更や、効果の高い除草剤と中耕・培土を組み合わせた体系防除を実施しましょ。